

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 70

学校名・団体名	岡崎市街地災害対策研究会
コース	団体研究
活動・研究のテーマ	体験を中心とした市街地での災害対策学習の推進

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 活動の経緯と意義・目的

岡崎市は40万人近くの人口で、名鉄東岡崎駅付近は商業施設が多く賑やかである。しかし、南海トラフ地震等災害が発生した場合、学区民だけでなく帰宅困難者が駅周辺に集まり、避難所となる周辺学校は、対応に追われることになる。熊本地震、北海道、広島・岡山を始め大災害が起き、防災や減災、避難に関わる気運が高まってきた。学校に通う子供たちや親、学区民、帰宅困難者等が、災害時に安全に過ごせるような訓練の必要性が論じられるようになった。

そこで、岡崎市市街地である学校を中心に、市街地での被災対応を進める「岡崎市街地災害対策研究会」を組織し、「①市街地学校に所属する子供たちが体験して防災教育を学ぶ②地域住民・消防組織と連携した防災・避難所活動の体験③学校職員による実践的な防災教育と避難所業務のノウハウを学ぶ（防災対応教職員の育成）」の3つを目的に本事業を行うこととした。

2 準備

(1) 組織

組織は、事務局を置く愛宕小学校を中心に、近隣の広幡小学校、三島小学校、梅園小学校、南中学校の防災に関わる教職員やPTA、地域の社会教育委員会、学区防災を担当する総代会、地域の消防団である広幡学区消防団等で連携した。その中で、避難所開設体験グループ、研修・広報グループ、防災・減災学習グループをつくり、児童の体験を中心とした活動を企画・運営をした。

(2) 指導者・講師

本事業全体を指導していただくために大学等専門機関に相談した結果、継続的に指導を受けるためには、地理的な状況をよく知っている方が適任であると指導をいただいた。そこで、市防災課や消防・防災関連の団体と相談し、市内在住の防災士で岡崎市の防災リーダーをして見える柴田様を始め、名鉄東岡崎駅周辺のハザード状況が分かっている方に指導を受けることができた。またその方々から専門的な経験のある方も見つけることができた。岡崎市防災リーダー・防災士 柴田様、避難対応・権利等専門家（大学准教授）芳賀様、土砂災害研究者内田様、災害ボランティア（東日本震災等で活躍した医療従事者）竹本様、災害ボランティア（避難所開設経験者）青木様、災害ボランティア（東日本震災等の経験豊富）唐澤様、他にも赤十字愛知県支部課長内田様をはじめ、多くの方に、指導・講師を依頼することができた。

(3) 事業計画立案と説明会（右写真）

8月日に企画会議実施、次週から予備的な体験事業や他団体主催の体験会等への参加、9月1～2日に避難所開設訓練を実施、9月～12月にかけて、各種研修への参加や学校での体験学習を実施。できるだけ多種多様な体験を実施し、その後、発表会・まとめを実施、2月に次年度に向けての企画会議をすることなどの日程・分担を決めた。



3 事業内容

(1) 市街地学校に所属する子供たちが体験して防災教育を学ぶ活動：子供たち自身が自らの命を守るため、防災や避難に関わる知識を増やし体験することで、これに関わる能力育成を目指した。学校での体験を通じた学習を中心に、専門家による学習、防災センター等での見学や体験などを行った。主に災害自体を知る内容、避難に関わる内容、生活に関わる内容、けがなどの医療に関わる内容である。



防災・避難研修/青年商工会防災イベント/煙道訓練/起震車訓練/防災対策避難・避難所開設学習/地質地盤学習実験



(2) 地域住民・消防組織と連携した防災・避難所活動の体験：保護者・地域民と協力して、子供たちが積極的に参加して学習できるプログラムを組んだ。また講師を招聘し実用的な知識を学び体験する内容を行った。



避難所開設/避難民案内・整列/親子土嚢作り体験/水バケツリレー訓練/赤十字による災害双六/担架での搬送訓練



宿泊訓練簡易セパレート作り/段ボール居住区作り/段ボールベッド作/すいとん作り/ビニールシートテント作り

(3) 学校職員による実践的な防災教育と避難所業務の学習（防災対応教職員の育成）：子供たちの能力育成に伴い、学校職員も専門的な知識・体験が必要である。指導者としての専門性を伸ばすため、各種研修会やセミナー参加や自主開催をしたり、岡山へのボランティア活動参加、東日本震災被災地視察等を行ったりした。

なおボランティア・研修に関わる記録は制限があるため範囲内で記す。



岡山ボランティア/県防災指導者研修会/避難所開設研修会/避難所体験研修会/名古屋防災展/名大防災セミナー



消防署と AED 研修/防災ログセミナー参加/5・6 年防災教室/福島郡山市日和田中視察/郡山市セミナー参加/防災学習会参加

④学習のまとめ・発表：子供たちが学習で学んだことをまとめた発表を、地域の方を招いて行ったり、防災マップにまとめたりする活動を行った。子供たちは、いろいろな体験をしたことから知識が増え、その成果をまとめた。また学習の経験から「避難ができない場合の対応」など講師への質問ができるようになった。(右写真)

4 成果・子供たちへの効果

上記報告の通り、子供と学区民、教職員が連携した事業により、防災に関わる学びができたことは確かで、加えてそれぞれの連携や心の絆が深まったことを感じる。特に学区民と協力した訓練により、諸機関より本事業の高い評価をいただいた。子供たちは、様々な体験から多くの知識を学び、経験により「自分の命を守る力」「共に思いやる気持ち」を育てることができたと感じている。被災地へのボランティアや復興支援についての気運も高まった。

5 謝辞

本事業実施のために、関係各位に大変多くの支援をいただきました。この事業により、今後の防災に関わる方向が明らかになりました。(財)ちゅうでん教育振興財団様への支援に感謝申し上げます。

